

第3回協同組合の地域共生フォーラム参加の皆さま 地域での連携を広げ、ともに生きる地域づくりを進めるために

1. 地域共生フォーラムにおける交流

3回にわたるフォーラムは、医療・福祉、地域共生に関わる協同組合の各地の実践者が、グループを越えて交流し経験を学び合い、「協同組合らしいケアとはなにか」を問い直す貴重な機会となっています。

協同組合は、医療・福祉、地域づくりをはじめ多様な事業・活動をつうじ、組合員や住民の参加・活躍の場を広げ、地域を支える大切な役割をもっていることを確認してきました。

コロナ禍は、格差拡大や孤立など社会が抱える問題を浮き彫りにしました。その中でも、協同組合が地域の命と暮らしを支える大切な役割(=広い意味のケア)を果たしており、ケアに関わる組合員や役職員(医療従事者含む)の取り組みが、地域の人々の切実な思いに応え、ともに生きる地域づくりを進める上で大きな可能性を発揮することを示しています。

2. とともに生きる地域づくりを進める

人生100年時代を迎える中、地域共生社会づくりにおいて協同組合のさらなる役割発揮が期待されます。各協同組合グループは、組合員や住民が当事者として参加し、願いをかなえる地域包括ケア、地域共生をともに進めることを掲げ取り組んでいます。

たとえば、JAグループは、本年10月の全国大会において「豊かでくらしやすい地域共生社会の実現」を掲げ、広く連携し高齢者が地域で安心して生活できる「JA版地域包括ケアシステム」に向け取り組むとしています(組織協議案)。

生協グループは、「2030ビジョン」(昨年策定)で「安心してくらし続けられる地域社会」を掲げ、居場所や拠点をつくり地域での助け合い・困りごとを解決する場を広げるとしています。医療福祉生協連は、2014年に「医療福祉生協の地域包括ケア」を提起、「2030年ビジョン」(昨年策定)で「誰もが健康で居心地よくくらせるまちづくりへの挑戦を」を掲げ、「地域包括ケア」をさらに発展させるとしています。

日本労協連は「みんなのおうち」を地域につくり出し、住民の願いを共に実現する「総合福祉拠点」にしていくとしています。

このように同じ方向をめざす協同組合どうしが協同を強め、地域の住民・団体と連携し、誰一人取り残さず、ともに生きる地域づくりを進めることが期待されます。

3. 参加の皆さまへ

本フォーラムは「地域共生社会づくりにさらに積極的に関わっていくため、相互の取組みを学び、協同組合の役割について考え、協同組合間協同を推進する場とする」を目的としています。

取組みを一歩ずつ広げるため、可能な県域や地域では、以下の検討をお願いいたします。全国団体は、各県域の中央会や県連との連絡調整を含め支援していきます。

- ① JA(単位JA、厚生連、中央会)、生協(地域生協、医療福祉生協、県生協連)、労働者協同組合などで顔合せや情報交換の場をもつ。(テーマ例: コロナ対応、地域包括ケア、健康づくり・生活支援・地域づくり、人材確保・育成など)
- ② それらを踏まえ、協同の取組みを検討する。